

## サービスマーニングを通しての学びについて

活動先：NPO 法人 もやい

クラス：原田 正樹 先生

### 1. 自分の成長と気づき

1年間のサービスマーニングでの活動や学びを通して、活動中での自分の成長や気づきをリフレクションシートや事前学習のレポート、活動中の活動記録、活動終了後の個人・グループの報告レポート、研究レポートなどからふりかえりたい。

まず、私は自分の福祉に対する考え方や視野を広げたいという理由で、さまざまな活動を展開されている“もやい”を活動先として選択させていただいた。事前学習や事前訪問などで自分のやりたいことや考えていることを自分の言葉にして活動先の代表者の方に伝えることに最初とまどって、自分の言葉で自分の意見をはっきり伝えることに自信がなく、不安な気持ちばかりであったことを覚えている。また、NPO についての知識がとても少なく事前学習にもとまどい、わからないことばかりだった活動前はただ不安な気持ちとこれからの活動に対して心配ばかりしていた。

そんな中、平成 21 年度にサービスマーニングを経験された先輩のお話をお聞きすることができる機会があった。そこで不安を先輩にたくさんぶつけ、アドバイスをたくさんいただき、そして自分のしたい活動をしっかり伝えることが大切だということに気づくことができ、不安も少なくなった。そして、その後もずっと学内ですれ違うといつも気にかけてくださるなど、本当に先輩にたくさん助けていただいた。

また、同じグループのメンバーと空きコマを利用して、活動の計画を立てたり、自分たちの意見を交換したりとサービスマーニングについて考える時間が多く、不安なのは私 1 人ではないことに気づくことができ、常に協力しながら学生で相談し、活動先と連絡をとることや、8 月の活動までの日程の調整を行うこと、活動後は実際の活動を通して学んだことをそれぞれ意見交換しながら自分たちで学びを深めていくことをして、学生が主体となって自分たちの学びたいことを多く見つめることができたと感じている。そして学生が主体となって学んでいくことの大切さと難しさをこの 1 年間を通して感じた。わからないことやつまづくことがたくさんあり、そのたびたくさんの方に助けていただきながら、あきらめずに最後まで取り組むことができたことが自信につながっている。

サービスマーニングでは、提示された研究テーマを文献など用いて研究するだけの内容ではなく、実際に福祉 NPO の現場で活動させていただいたことを通して、自分たちで研究テーマを見つけ考察することや、生のケースで考えながら自分たちで問題解決について研究することができた。そして、自分の意見をグループのメンバーに伝え、メンバーの意見を聞きながら、自分たちの研究を進めることの楽しさや、たくさんの方に協力し支えていただいて成り立っていた 1 年間の学びであったことに気づいた。自分の意見を上手く伝えることができなかった私も、グループの中で意見しながら学習に取り組むことができるように成長できた。そしてこれらのことは、これからの学びに大きくつながる自信をつけることができ、学習に取り組む姿勢や問題に向き合っていくこと、諦めずに学んでいくこ

との大切さを知ることができた。たくさん悩み、考え、たくさんの方たちに応援していただきながら、一生懸命学ぶことができた本当に充実した1年間になったと感じる。

## 2. この活動を通して見えてきた地域活動や社会課題

子育て支援やお年寄りへの支援、障がいをもった方への支援、地域との交流活動などのたくさんの現場に関わらせていただいた6日間の活動であったが、その中でもやはり1番の社会課題として私が感じたのは、NPOと子育てにおけるコミュニケーションの不足についての問題である。

私たちの活動先では、“高齢者による子育て親育て事業“といった形で、地域の伝統などをこれからの世代に伝えていくため講座を開くなどの活動をされているが、その中に夏休み中の小学生の子どもたちが参加していた。そして、スタッフの方からは、「子どもたちの親からは何もあいさつがなく、講座をただの託児所のような感覚でお家から送り出しているのだろう」というお話をうかがうことができた。このお話を聞き、私はNPOと親たちのコミュニケーションが不足していると感じた。

地域と家族が信頼関係を築きながら、NPOについてより正しい理解をし、NPOを活用してもらうために、NPOが大切にしなければならないコミュニケーションとは何だろうかと考えたい。私は、子育てにおいてさまざまな悩みを抱えている親が多いのではないかと感じるのであるが、同時にその悩みを打ち明ける場がなくなっているのではないかとすることも感じる。都会での暮らしや核家族化などによって、地域や近所との関わりや高齢になっていく自分の親との関わりが少なくなることで、つらい子育ての悩みを抱え込んでしまっている親はたくさんいるのではないだろうか、最近の児童虐待のニュースなどから感じるのである。

こういったときに、NPOは悩みを打ち明けられる場所や意見の交換の場所として、「困った時はお互いさまです」「一緒に考えていきましょう」というメッセージをより強く発信していくことが大切なのではないだろうか、そして発信していくことを提案したい。地域との関係が希薄になってしまった現代では、今すぐに昔のように家族のような関係を取り戻していくことは難しいと思うが、メッセージを発信して、そしてNPOについて正しく理解してもらいながら信頼関係を築いていくことはできると思うのである。そうすることによって、信頼関係を築くことができると、子育ての問題だけではなく、障がい者に対する支援の問題、これからより多くなっていくだろうと考えられる高齢者の介護の問題についてNPOから地域に発信していくこともできるようになるのではないかと考える。

## 3. おわりに

お忙しい中、私たちの活動を受け入れ、また報告会などにもいつも参加して下さった活動先NPOのスタッフのみなさまには本当に感謝しています。座って受ける講義だけでは決して感じることはできないたくさんを感じることができ、これからの自分自身の学びにとって大きなものになったと思います。活動を通して活動に対する熱い思いを近くで感じることができ、私たち“もやい”で活動させていただいた3人のメンバーにとって、“もやい”はとても居心地のよい大切な場所になりました。この1年間で活動は終わってしまっていますが、私たちにとって大きな経験をさせていただき成長させていただいた場所であるからこそ、ずっと地域のみなさんの寄り合いどころのような温かい場所であり続けてほしいと願っています。本当に1年間、ありがとうございました。